株主の皆様へ

サカタのタネ

第73期報告書

平成25年6月1日から平成26年5月31日まで

株式会社 サカタのタネ
SAKATA SEED CORPORATION

代表取締役社長

坂田　宏

株主の皆様におかれましては、平素から格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社第73期（平成25年6月1日～平成26年5月31日）の決算の概況をご報告申し上げます。

当期における世界経済をみますと、米国では、底堅い個人消費などを中心に緩やかな回復基調にあり、また、欧州経済においても4四半期連続でプラス成長を記録するなど、景気回復が続いております。一方、新興国においては、中国では景気が減速傾向にあり、インド、ブラジルでも高いインフレ率などを背景に成長率は鈍化しております。

わが国経済は、4月からの消費税率引上げによる駆け込み需要の反動減の落ち込みがあったものの、設備投資の増加や、円安による輸出の押し上げ、底堅い個人消費などにより、堅調な成長を持続しております。

当種苗業界は、依然として国内需要は頭打ちの状況が続いておりますが、海外においては、新興国を中心に、野菜種子の需要は拡大を続けております。

このような状況の中、当社グループにおいては、国内卸売事業は野菜種子、苗木、資材を中心に順調に売上を伸ばしました。海外卸売事業においても野菜種子が好調に推移し、前期比増収となりました。小売事業は、猛暑、大雪などの天候不順の影響もあり、厳しい状況となりました。

当社グループの当期における業績は、売上高は539億22百万円（前期比36億48百万円、7.3%増）となり、営業利益は、36億87百万円（前期比14億68百万円、66.2%増）となりました。

経常利益は、為替差損2億69百万円（前期は、為替差益7億95百万円）を計上したことなどにより、39億9百万円（前期比3億44百万円、9.7%増）に留まりました。税金等調整前当期純利益は、投資有価証券売却益が前期に比べ5億60百万円減少したことなどから、39億96百万円（前期比2億94百万円、6.9%減）となりました。また当期純利益につきましても、法人税、住民税及び事業税が1億54百万円増加したことから、26億81百万円（前期比4億17百万円、13.5%減）となりました。

当社の来期見通しにつきましては、国内卸売事業では各品目で増収を予想しております。

特に野菜種子では、ホウレンソウ、トマト、トウモロコシ、豆類など、また花種子ではパンジー、トルコギキョウ、ヒマワリなどを中心に順調な売上の伸びを予想しております。苗木、資材につきましても好調に推移する見込みです。

小売事業につきましては、ホームガーデン分野では絵袋種子の新商材を中心とした販売強化を図りますが、来期も継続して不採算商売の削減に取り組みますので、通期の売上高は前期比減収を見込んでおります。業務コストの徹底削減を行い、営業利益の改善を図ってまいります。また、通信販売分野は、月刊誌カタログの内容充実やECサイトの企画増強などにより、収益拡大に努めてまいります。ガーデンセンターにおきましても、多数のシーズンイベントを通じた店舗販売強化と、全国のお客様へ向けてのネットショップの活用などを通じて売上増加を見込んでおります。

海外におきましては、野菜種子では既存の販売網を最大限に活かして、当社が強みを持つ現在の品目群に加え、新たな品目での一層の拡販を予定しております。花種子の販売は、依然厳しい環境にありますが、利益を重視した活動に注力してまいります。

以上により、来期の見通しにつきましては、連結売上高は前期比1.1%増の545億円、同営業利益は同比8.5%増の40億円、同経常利益は同比12.5%増の44億円、同当期純利益は同比11.9%増の30億円と見込んでおります。

通期為替レートは、101円／US$、138円／ユーロで設定しております。

当社のこれからの課題として国内外の農業分野への貢献と更なる企業価値の向上があげられます。

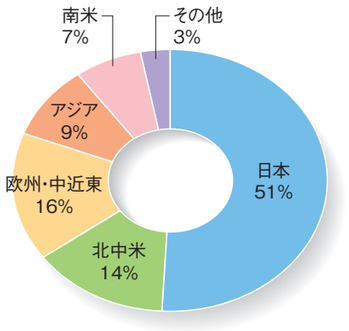
国内の農業分野は、農業人口の減少や高齢化、作付け延べ面積の減少、耕作放棄地の再生などの諸問題を抱えております。その中で政府は、成長戦略の一環として農産物の輸出増大、農家の所得倍増計画を掲げております。また6月に国会において「花き振興法」が成立するなど、新たな動きが注目されております。これらを実現するためには、付加価値の高い種苗の安定供給がますます重要となってまいります。

一方で海外におきましても、先進国で健康への関心が高まり、新興国では食料消費の拡大が指向されております。人々に心の安らぎをもたらす花、体に健康をもたらす野菜、その根幹であるタネを提供する種苗会社の社会的な役割が、世界的にも高まってきております。当社はこうした社会的責任を真摯に見つめ直し、今後もなお一層国内外の農業の活性化に貢献してまいります。

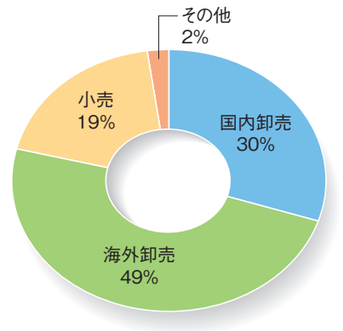
当社は、大正2年に創業者坂田武雄が坂田農園を設立して以来、「品質・誠実・奉仕」の社是を守り、高い品質の種子を開発し、安定供給してまいりました。昨年6月には当社は創業100年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様を始め関係各位のご支援の賜物と感謝しております。しかしながら、これはあくまで通過点にすぎません。

農業分野が抱える諸問題や国内外の経済、金融の情勢など、当社経営を取り巻く環境はかつてなく厳しく、業界内の競争も年々激化しております。当社は、持続的な研究開発活動とグローバルな営業展開をさらに推し進め、高い収益力と健全な財務体質を兼ね備えた種苗業界のリーディングカンパニーを目指して、たゆまぬ努力を続けてまいります。

■地域別売上高



■事業別売上高



営業の概況

国内卸売事業

国内卸売事業は総じて順調に売上を伸ばし、前期比大幅増収となりました。また、野菜種子、花種子、資材では一部の商品で消費税増税に伴う前倒し需要が発生しました。野菜種子はトマト、ブロッコリーが好調に推移し大きく売上を伸ばし、またトウモロコシ、ネギ、ホウレンソウなどの売上も伸び、前期比増収となりました。花種子は、鉢物用、花壇・苗物用などの一部商品で売上が伸び悩んだものの、ストック、トルコギキョウ、ヒマワリなどが順調に推移し、前期比増収となりました。苗木は、トマト接木苗、メロン苗、キュウリ苗の売上が好調で、前期比増収となりました。資材は、ハウス関連資材、農業用フィルム製品や戦略商品の高機能液肥などが売上を伸ばし、前期比増収となりました。

これらの結果、売上高は、前期比5億14百万円（同3.2%）増の163億48百万円となり、営業利益は同比1億98百万円（同3.5%）増の58億14百万円となりました。

海外卸売事業

海外卸売事業はほとんどの品目で売上が伸び、前期比大幅な増収となりました。

それぞれの地域別の状況を見ますと、アジア向け輸出は、ブロッコリー、ホウレンソウ、トルコギキョウなどが大きく伸びたことから前期比増収となりました。北米では、花種子は減収となりましたが、野菜種子がブロッコリーなどを中心に伸びたことから、前期比増収となりました。欧州は、ブロッコリー、トマト、カボチャなどの野菜種子が好調に推移し、前期比増収となりました。南米においても、野菜種子が順調に売上を伸ばし、前期比増収となりました。

野菜種子では特にブロッコリー、カボチャ、トマト、ホウレンソウの伸びが顕著となりました。花種子につきましては、円安の影響で円ベースでは前期比増収となりましたが、現地通貨ベースにおいては、北米、欧州地域で減収となっております。

これらの結果、売上高は、前期比42億37百万円（同19.1%）増の264億5百万円となり、営業利益は、同比22億16百万円（同58.4%）増の60億9百万円となりました。

小売事業

ホームガーデン分野は、昨年夏の記録的な猛暑と秋終盤の急激な気温低下、また今年2月に関東甲信地方を襲った豪雪などの影響に加え、不採算品の販売縮小を行ったことから、売上高は前期比大きく減収となりました。利益面は、物流コストの圧縮などを行い、販売費及び一般管理費を大きく削減することができましたが、売上減少による売上総利益減を補えず前期比減益となりました。

通信販売分野は、月刊誌の掲載企画を刷新したことにより、オリジナル野菜苗、花苗は増収となりましたが、全国的な天候不順の影響を受け、野菜種子、花種子、宿根草、花木苗などが伸び悩み、前期比減収となりました。

ガーデンセンターでは、昨年夏の猛暑、11月中旬以降の冷え込みの影響と今年2月の大雪により、営業全般に苦戦を強いられましたが、昨年3月の店舗改装を機に新設したマルシェ（青果販売）、カフェ（Green Bonds Cafe）との相乗効果により、ご来店のお客様の年齢層が大きく広がり、年間ご来店者数は前年比増となりました。また11月に立ち上げたネットショップ「サカタのタネっと」により商圏が拡大し新規のお客様のご注文も増え、売上は前期比増収となりました。

これらの結果、売上高は、前期比11億93百万円（同10.4%）減の103億31百万円となり、営業損益は同比7百万円改善し、3億75百万円の損失（前期は3億83百万円の営業損失）を計上しました。

その他事業

造園緑花分野は、官公庁工事、民間工事などが増加し、前期比増収となりました。

この結果、売上高は前期比89百万円（同12.0%）増の8億36百万円となり、営業損益は前期比5百万円改善し、18百万円の損失（前期は24百万円の営業損失）を計上しました。

◀レタス オーディブル

冬場の安定供給を実現できるレタスの中早生新品種。低温環境下でも外葉の生育が旺盛で結球性に優れています。大玉になるため一般の利用はもちろん、サンドイッチやハンバーガーなどの加工・業務用にも向く万能品種です。

◀亜りん酸液体肥料 エコエナジー

OATアグリオ株式会社様と共同開発した複合液肥。亜りん酸と機能性アミノ酸を含み、両者の相乗効果で植物体内の代謝を活性化させ、生育を促進します。食品甘味料の製造過程で産生される原料を使用するため安心・安全な商品です。

◀ポーチュラカ サンちゅらか®シリーズ

昼過ぎには花が閉じてしまうポーチュラカの欠点を解決すべく開発した品種。夏の日ざしを受けて育つ太陽（サン）のイメージで命名し、盛夏でも生育旺盛でボリュームのあるこんもりした草姿となります。さらに環境ホルモン「ビスフェノールA」の高い分解力も備えています。

◀横浜・山下公園の花壇

造園緑花部が、横浜名所・山下公園の花壇を当社オリジナルのジニア　プロフュージョンの花々で彩りました。

トピックス

野菜を気軽に収穫体験
使いきりサイズの絵袋入り種子「スピーディベジタブル」発売開始

サカタのタネは、栽培から最短で20日で収穫でき、一度のタネまきで1包分のタネを使いきることができるミニサイズの絵袋入り種子シリーズ「スピーディベジタブル」を平成26年6月から販売開始いたしました。

栽培スペースが限られるお客様からの「袋のタネを使いきれない」というご意見を取り入れ、一度で使いきれるタネが2包で1袋という形態となっています。初心者でも成功するように手軽さや扱いやすさを追求しており、「ベビーリーフレタス」、「コマツナ」、「バジル」など、栽培に手間がかからずベランダなどでも良く育つ24アイテムをラインアップしております。また、日数別に「20日～収穫」、「30日～収穫」、「50日～収穫」の3タイプのシリーズがあり、献立に合わせてタネをまくなど、食べ方をイメージした栽培がしやすいのも特徴です。

今後、従来の絵袋種子商品がほとんど扱われなかった売り場チャンネルでの商品展開も検討しており、これまで園芸に興味がなかった新規顧客の開拓を目指します。

▲「スピーディベジタブル」と、そこから育てた野菜の調理例

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）（単位：百万円）

	前　期 平成25年5月31日現在	当　期 平成26年5月31日現在
【資産の部】		
流動資産	52,419	57,146
固定資産	37,367	39,268
有形固定資産	26,560	27,528
無形固定資産	974	933
投資その他の資産	9,832	10,806
資産合計	89,787	96,414
【負債の部】		
流動負債	7,914	10,326
固定負債	4,186	4,687
負債合計	12,100	15,014
【純資産の部】		
株主資本	78,693	80,247
資本金	13,500	13,500
資本剰余金	10,823	10,823
利益剰余金	58,838	60,395
自己株式	△4,468	△4,470
その他の包括利益累計額	△1,115	1,021
その他有価証券評価差額金	2,117	2,441
為替換算調整勘定	△3,232	△1,367
退職給付に係る調整累計額	−	△52
少数株主持分	108	130
純資産合計	77,686	81,399
負債・純資産合計	89,787	96,414

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書（要旨）（単位：百万円）

	前　期 平成24年6月１日から 平成25年5月31日まで	当　期 平成25年6月１日から 平成26年5月31日まで
売上高	50,274	53,922
売上原価	25,921	26,661
売上総利益	24,353	27,260
販売費及び一般管理費	22,133	23,573
営業利益	2,219	3,687
営業外収益	1,443	621
営業外費用	97	399
経常利益	3,564	3,909
特別利益	890	232
特別損失	164	146
税金等調整前当期純利益	4,290	3,996
法人税、住民税及び事業税	1,095	1,250
法人税等調整額	90	64
少数株主損益調整前当期純利益	3,104	2,680
少数株主利益	5	△0
当期純利益	3,098	2,681

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）（単位：百万円）

	前　期 平成24年6月１日から 平成25年5月31日まで	当　期 平成25年6月１日から 平成26年5月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	715	3,552
投資活動によるキャッシュ・フロー	555	△2,018
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,082	41
現金及び現金同等物に係る換算差額	427	353
現金及び現金同等物の増減額	615	1,929
現金及び現金同等物の期首残高	6,617	7,233
現金及び現金同等物の期末残高	7,233	9,162

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書（単位：百万円）

平成25年6月１日から 平成26年5月31日まで	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
平成25年6月1日　期首残高	13,500	10,823	58,838	△4,468	78,693	2,117	△3,232	−	△1,115	108	77,686
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当	−	−	△1,125	−	△1,125	−	−	−	−	−	△1,125
当期純利益	−	−	2,681	−	2,681	−	−	−	−	−	2,681
自己株式の取得	−	−	−	△1	△1	−	−	−	−	−	△1
自己株式の処分	−	0	−	−	0	−	−	−	−	−	0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	−	−	−	−	−	324	1,865	△52	2,136	21	2,158
連結会計年度中の変動額合計	−	0	1,556	△1	1,554	324	1,865	△52	2,136	21	3,713
平成26年5月31日　期末残高	13,500	10,823	60,395	△4,470	80,247	2,441	△1,367	△52	1,021	130	81,399

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体財務諸表

貸借対照表（要旨）（単位：百万円）

	前　期 平成25年5月31日現在	当　期 平成26年5月31日現在
【資産の部】		
流動資産	**33,686**	**33,945**
固定資産	**43,128**	**43,573**
有形固定資産	19,627	19,472
無形固定資産	356	267
投資その他の資産	23,144	23,833
資産合計	**76,814**	**77,518**
【負債の部】		
流動負債	**4,237**	**4,799**
固定負債	**2,838**	**2,806**
負債合計	**7,076**	**7,605**
【純資産の部】		
株主資本	**67,629**	**67,482**
資本金	13,500	13,500
資本剰余金	10,823	10,823
利益剰余金	47,774	47,629
自己株式	△4,468	△4,470
評価・換算差額等	**2,108**	**2,431**
その他有価証券評価差額金	2,108	2,431
純資産合計	**69,738**	**69,913**
負債・純資産合計	**76,814**	**77,518**

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書（要旨）（単位：百万円）

	前　期 平成24年6月１日から 平成25年5月31日まで	当　期 平成25年6月１日から 平成26年5月31日まで
売上高	32,654	33,296
売上原価	19,393	19,410
売上総利益	**13,260**	**13,885**
販売費及び一般管理費	12,718	13,099
営業利益	**542**	**786**
営業外収益	1,889	774
営業外費用	28	77
経常利益	**2,403**	**1,482**
特別利益	144	0
特別損失	76	220
税引前当期純利益	**2,471**	**1,263**
法人税、住民税及び事業税	392	359
法人税等調整額	194	△76
当期純利益	**1,884**	**980**

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

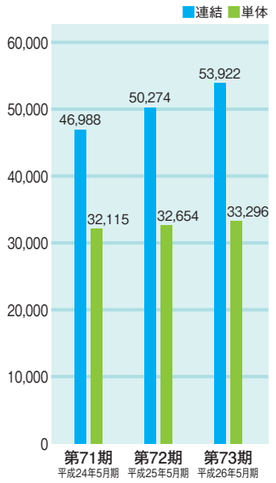
株主資本等変動計算書（要旨）（単位：百万円）

平成25年6月１日から 平成26年5月31日まで	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成25年6月1日　期首残高	13,500	10,823	47,774	△4,468	67,629	2,108	69,738
事業年度中の変動額							
剰余金の配当	—	—	△1,125	—	△1,125	—	△1,125
当期純利益	—	—	980	—	980	—	980
自己株式の取得	—	—	—	△1	△1	—	△1
自己株式の処分	—	0	—	—	0	—	0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—	322	322
事業年度中の変動額合計	—	0	△144	△1	△146	322	175
平成26年5月31日　期末残高	**13,500**	**10,823**	**47,629**	**△4,470**	**67,482**	**2,431**	**69,913**

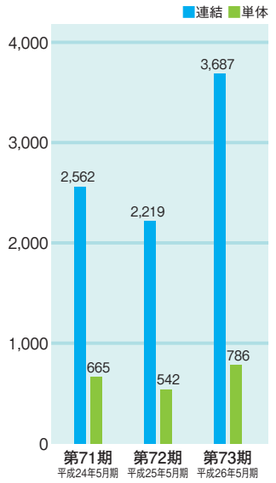
（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

業績の推移

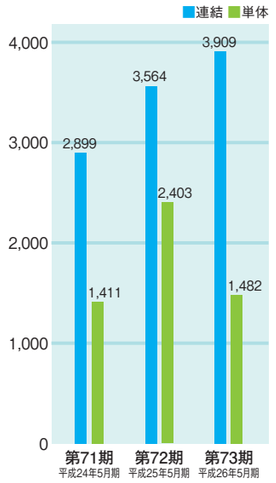
売上高（単位：百万円）



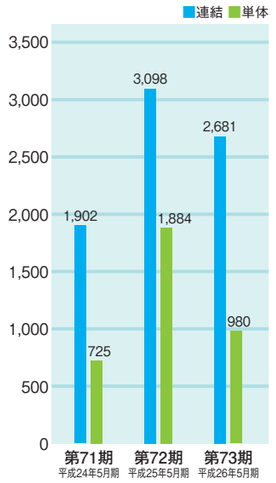
営業利益（単位：百万円）



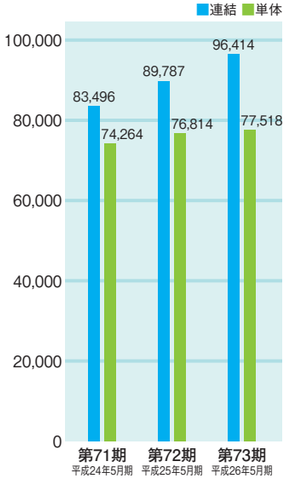
経常利益（単位：百万円）



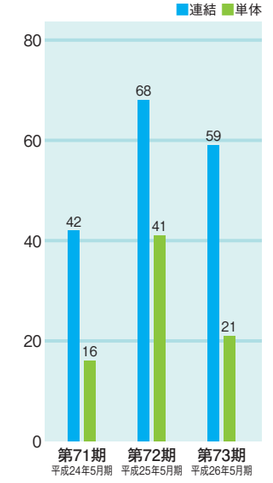
当期純利益（単位：百万円）



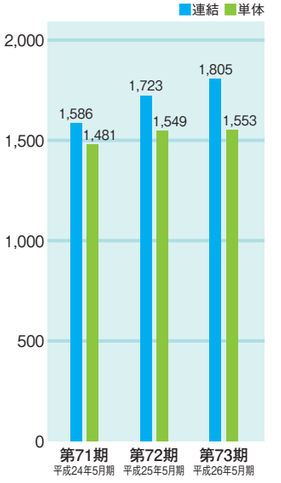
総資産（単位：百万円）



一株当たり当期純利益（単位：円）



一株当たり純資産（単位：円）



会社の概要（平成26年5月31日現在）

商号	株式会社 サカタのタネ
英文社名	SAKATA SEED CORPORATION
創業年月	大正２年（1913年） ７月
設立年月	昭和17年（1942年）12月
資本金	135億円
本社	横浜市都筑区仲町台二丁目7番1号
従業員数	644名

株式の状況（平成26年5月31日現在）

発行可能株式総数 ―― 104,000,000株
発行済株式の総数 ―― 48,410,750株
株主数 ―― 34,045名
大株主

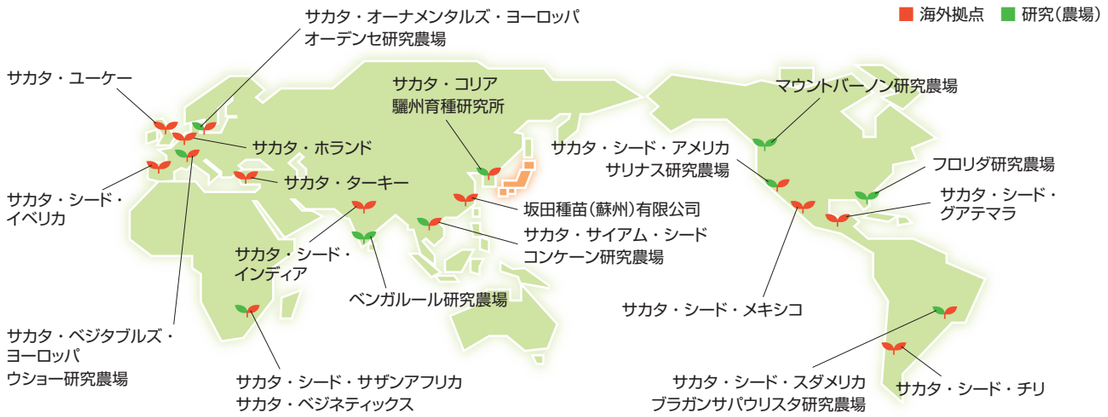
株主名	持株数（株）	持株比率（%）
有限会社ティーエム興産	7,607,996	15.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,523,957	5.21
株式会社みずほ銀行	2,245,500	4.63
株式会社三井住友銀行	1,990,760	4.11
株式会社横浜銀行	744,047	1.53
丸一鋼管株式会社	712,200	1.47
キッコーマン株式会社	678,000	1.40
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	666,400	1.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	563,500	1.16
横浜冷凍株式会社	558,250	1.15

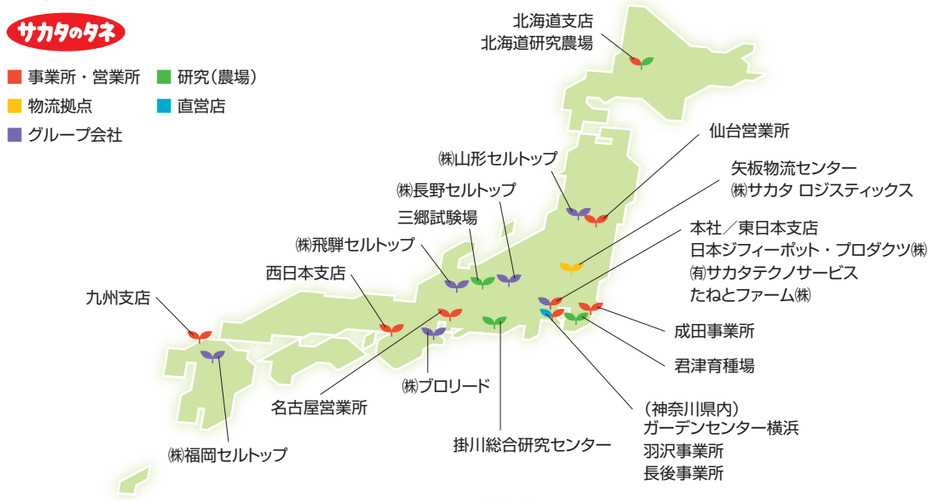
役員（平成26年8月26日現在）

代表取締役社長 社長執行役員	坂田 宏	常勤監査役	遠田光雄
専務取締役 専務執行役員	荒川 弘	監査役	佐藤順信
常務取締役 常務執行役員	内山理勝	監査役	長谷川上
常務取締役 常務執行役員	金子英人	執行役員	黒木達司
常務取締役 常務執行役員	加々美勉	執行役員	黒岩和郎
常務取締役 常務執行役員	太田誠	執行役員	三浦高明
取締役 執行役員	田崎正光	執行役員	中井智二
取締役 執行役員	本田秀逸	執行役員	米本丈夫
取締役 執行役員	宇治田明史	執行役員	古木利彦
取締役	菅原邦彦	執行役員	齋藤弘佳

当社ホームページは、充実した画面によりオンラインショッピング・最新ニュース・会社案内・財務情報や採用情報を提供しています。ぜひご利用ください。（http://www.sakataseed.co.jp/）

信頼のネットワーク





■本社
〒224-0041　横浜市都筑区仲町台2-7-1
TEL 045-945-8800㈹

株主メモ

事業年度	6月1日～翌年5月31日
期末配当金受領株主確定日	5月31日
中間配当金受領株主確定日	11月30日
定時株主総会	毎年8月下旬
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所（証券コード 1377）
公告の方法	日本経済新聞

（ご注意）
株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いたします。

当社では、株主の皆様はもとより、顧客の皆様方の満足度向上を目指し、「お客様相談室」を設けております。

お客様相談室　TEL：（045）949－8137（受付時間：平日　午前9時～午後5時）

（表紙）
「黄化葉巻病耐病性」「食味」「収量性」の三拍子がそろった画期的な大玉トマト「麗旬（れいしゅん）」
トマト産地で深刻な被害をもたらしている病害「トマト黄化葉巻病」への耐病性を持ち、さらに「優れた食味」「高い収量性」を兼ね備えた、トマト産地の課題解決につながる画期的な新品種です。
来る平成27年春から販売開始予定です。

VEGETABLE OIL INK